

拜啓 日中は汗ばむほどの陽気となり 夏の近いことを実感する季節になりましたが  
水野先生、ペアレンツキャンプの皆様いかがお過ごしでしょうか。

この度は一年六ヶ月にわたるご支援を頂き 本当にありがとうございます。

娘の高校生活がスタートし、はや一ヶ月が経ちました。当たり前前に登校していく姿も  
見送れる日々喜びを感じております。

振り返ってみますと中二の六月頃 学校全体として動いて下さる程のいじめがおこりました。  
発覚当日には家庭訪問、そしてスクールカウンセラーとの面談も段取りして下さり、娘には  
学校へ来なくて良い。私には娘を守りましょうという内容のカウンセリングでした。

当時いじめを苦にした事件が世間を騒がせていたので 周囲が休みを認める対応でした。  
ただこれは休み出したきっかけにすぎないという事を家庭教育に巡り合う事で知る事が  
出来たのです。



娘は生後八ヶ月で大病を患い、後遺症として左半身がマヒしました。歩行はリハビリで回復したものの左手は使いつらいままです。なので将来が心配で何とか自立させてやらなければという意識は強くありました。でもそれはリハビリに通い作業的な自立にすぎませんでした。一人で出来る事を増やしてやる事を目的に厳しく練習させたりしたかと思うと、泣いてダダをこねだすと、泣きやめくことは痛気の再発につながるのですぐに言う事を聞く甘い対応をしたりと一貫性がなく、又自信をつけさせてやりたいと勉強をさせよりの良い環境の方が友達とのトラブルが少ないだろうと中学受験をさせ、とにかく良かんと、思って先回りの対応ばかりしてしまいました。

結果娘は、社会性が年相応ではなく、問題が起きても一人で解決出来ない子になっていました。夏休みが終わる前中学校からはじめへの指導はしたこと、カウンセラーからは夏休みは好きな事を充分にさせてやれた事だし、登校は本人の意志に任せましょう、という話が



ありました。週に二、三日は休むというスタイルで九月が過ぎ十月に月に一度の面談時に指摘された点は、娘の欠席が月曜日に多い。理由は土日の甘えさせ方が不足しているからだという事でした。私から見た娘は好きな事だけをさせすぎてわかまま放題のお姫様になっていたにもかかわらずです。ヤすがに何か違うと感じました。

同時期に娘の口から、二年生の間は学校に行きたくない。三年生まで休ませて欲しいという言葉が出ました。具体的方法はわかりませんが、このままだとまずい、三年になっても学校には行けないはずだと確信しました。

そこからはインターネットで不登校に関して情報収集をしました。恵まれた縁があり、ペアレニツキャンプにたどり着くには時間がかからなかった事が不幸中の幸いです。

水野先生に支援を開始頂いたのは十一月です。

支援頂くに際して、左手の障がい的事を躊躇されるのではないかと、いう不安が一番に



ありましたが、身体の事はこの先誰も変わってやる事が出来ない。自分でやるか助けてもらうために頼むかの判断の出来る子にしてやればいいだけだと仰いました。その時、私こそが障がいという枠にとらわれていると気付きました。

そして今起きている問題は子ども自身が原因ではなく、家族を一つのシステムと考え原因は子どもを含めた家族全体にあるという事を教えて頂きました。

父性と母性の役割り分担も出来ていませんし、夫婦間のコミュニケーション不足、そして子上位でした。毎日家庭ノートに会話を記入し提出しては我が家を分析して下さる具体的なアドバイスが始まりました。又電話カウンセリングではタイムリーに起こった問題についても客観的に説明して下さるので、大問題だと血相を変えて電話をかけていたはずが、切る時にはすっかり冷静になる事が出来ました。

こうして家庭内対応を変えていくうちに少しずつ娘にも変化が現れ、中三の進級時には



家庭内の対応だけで継続登校のステージに進む事が出来ました。

もちろん山あり谷ありですが、先生から私が横で併走して下さるかと励まして頂いたおかげで目の前の問題に立ち向かう事が出来ました。

こうして中三の進路決定時も親が先回りして口を出さない事で自分の問題として

考え出し、志望校を決めました。ただ当時の娘の成績では合格ラインはほど遠く

そしてなかなか動き出さずともしなないのでいらはりました。先生から勉強の事は言わないで

下さいとの事だったのでアドバイス通り見守っていると秋頃から猛ダッシュをかけ、最後には

自分の力で合格をつかみ取りました。

今の娘は支援前とは比べものにならない位頼もしくなりました。

復学だけではなく、ここまで家族全体を修正頂けた事にじから感謝致します。

今では娘の辛い不登校という経験があたからこそ、家庭教育に出会い、学べた事を



良かったとさえ感じます。

この気持ちを忘れず、これからも気を引き締め、夫婦で家庭教育を頑張っ  
て参ります。  
水野先生はじめ、訪問の山下先生、先生には全力で支えて下さった事に  
感謝の気持ちでいっぱいです。心からお礼申し上げます。

全国を飛び回りお忙しい日々が続くとは思いますが、どうぞご自愛下さい。

敬具

平成二十七年五月四日